



新年明けましておめでとうございます。  
本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

2022年を振り返ると、個人的には嬉しいニュースもありましたが、社会情勢に目を向けるとやはり暗いニュースばかりが気になります。特に、世界にとっても、日本にとっても、そして私にとってもショッキングであったのはやはり今回のロシアによるウクライナ侵略でしょう。

日本とウクライナは地理的に離れておりロシアによるウクライナ侵略による直接的な被害は少ないため、どうしてもエネルギー価格高騰による物価上昇など間接的な影響に注目しがちです。しかし、ロシアによるウクライナ侵略は、日本に秩序と平和の実現や維持について真摯に考える機会を与えた重要な歴史的転換点となるはずで

私は平成の生まれですから、物心がついたときにはソ連は崩壊しており、東西冷

戦も歴史の教科書の中だけの過去の出来事に過ぎませんでした。むしろ、学生の頃は「これからはグローバリズムだ。」と言われて、日本もかつて鉄のカーテンの向こう側であったロシアなどとの交流も進み、一時は友好ムードも漂っている様でした。しかも、ロシアによるウクライナ侵略前において、専門家の間では「ロシアによるウクライナ侵略はない。」との意見が多数を占めており、戦争勃発はおろか今日のような泥沼の長期戦になると予想した方はほとんどいませんでした。

それが一転して、ロシアによるウクライナ侵略により友好ムードが吹き飛び、かつ現在でも凄惨な戦いが続いていることからすると、秩序や平和はいきなり明日崩壊してもおかしくないほどに脆いものであり、日本の現状の平和も決して不変のものではないと認識させられました。

先述のとおり、日本にはロシアによるウクライナ侵略による直接的な被害が少ないせいも日本全体のロシアによるウクライナ侵略に対する関心は日に日に薄れているように思えます。日本の安全保障についても、すぐに取り組むべき重要課題として日本全体で真摯な議論がされている様にも思えません。しかし、ロシアによるウクライナ侵略により、秩序や平和は突然に崩れ去ることを目の当たりにしたはずで

す。対話や関係改善を優先するか、有事に備え防衛費をあげるか、平和の実現や維持に向けた手段は様々あるでしょうが、ただ平和を願うだけでなく、平和の実現や維持に向け日本全体で真摯に議論し考えなければならない時期に来ていることは間違いのないと思います。

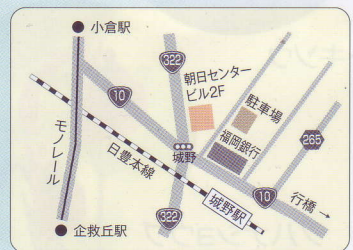
後世の人達から「平和への努力を怠った。」と言われたいないようにしたいものです。

■ みなさんといっしょに環境や社会の問題を考え、紙面を作っていきます。

# 東風

No.38

- 発行日 2023年1月1日
- 発行所 小倉東総合法律事務所
- 編集者 荒牧 啓一
- 連絡先 〒802-0062 北九州市小倉北区片野新町2丁目12番21号  
朝日センタービル2階  
TEL093(932)5575  
FAX093(932)5600  
e-mail:ponpoko@lime.ocn.ne.jp





平尾台が生んだ  
広谷湿原

# ラムサール条約の 登録地にしよう!



## 「ラムサール条約」をご存じでしょうか?

正式名称を「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促進するため、各締約国が国際的に重要な湿地を指定するものです。日本においては釧路湿原が登録湿地として著名ですが、琵琶湖や宮島（この記事執筆するにあたって初めて知りました）等、全国で53ヶ所が登録されています（2021年11月18日現在）。

「広谷湿原」は、平尾台を含む北九州国定公園内にあり、平尾台自然観察センターから東に2～3km程に位置する県内唯一の湿原です。平尾台はカルスト台地として有名ですが、カルスト台地では通常水が地下の鍾乳洞へと流れ込んでしまうところ、広谷湿原は水に溶けにくい花崗岩質の「鬼の唐手岩」が水をせき止めたことで湿原になっており、カルスト台地にある湿原は世界でも珍しいものです。また、絶滅危惧種となっているトキソウやノハナショウブ等の湿原特有の貴重な植物が自生しています。

## 貴重な植物が自生する県内唯一の湿原

そんなラムサール条約ですが、ここ北九州地域にも登録を目指して活動が行われている湿地があることをご存じでしょうか?



トキソウ



ノハナショウブ





## ラムサール条約登録を目指して

そんな広谷湿原ですが、東筑紫学園高校理科部が、ラムサール条約登録実行委員会の事務局として条約登録のために活動しています。福岡県弁護士会公害・環境委員会では、条約登録に向けた状況を調査するため、同部へのヒアリングと現地調査を行いました（左のパノラマ写真は現地調査した際の写真です）。

8月という時季でしたが、400~500m程度の標高のため、少し（ではありますが）涼しく、吹く風や虫の音に秋の訪れを感じました。広大な湿地の中、草を掻き分け水の流れを伝い歩くと、流れ落ちる

「滝不動」。久し振りの登山で気持ち良い汗をかきながら、マイナスイオンを感じる昼下がりでした。

## みなさんの応援が登録を後押し

広谷湿原は、ラムサール条約の登録条件の中で、①湿地としての国際的重要性、②国内の法律による保護という条件は満たしているのですが、③地元住民による賛同という部分が登録に向けての課題とされています。みなさん、身近にある世界的湿地を体験してみませんか？そして、“高校生によるラムサール条約登録活動”、応援しましょう！

参照：ラムサール条約登録実行委員会HP  
(<https://hirotani-ramsar.jimdofree.com/>)

## 応援ありがとうございました

みなさんのご支援で3期目の議席

## 「夜明け前」の大激動を闘いぬきます

にひ そうへい  
参議院議員 仁比 聡平

国会の周りではイチョウがいよいよ深く色づく季節。迎える新しい年がみなさんにとって本当に良い年になりますように。心から祈ります。

「参議院選挙で議席奪還を」と挑戦を表明してからちょうど一年。

コロナがなければ失うことがなかった命。守ることができなかった政治。

ロシアのウクライナ侵略に乗じ、日本の政治に起こった大軍拡と憲法改悪の大合唱。

アベノミクスが引き起こした異常円安と物価高騰、生活危機。

逆流を押し返し、なんとでも「憲法こそ希望」と一日一日を積み重ねてきました。厳



（参議院法務委員会で）

しい選挙。みなさんの力がなければ3年ぶり3期目の議席はありませんでした。みなさんへの感謝を忘れることなく、また、かつてない頑張りで支えてくれた弁護士・事務局の仲間たちの信頼に必ず応えるために全力を尽くしています。

いよいよ窮地の岸田政権。それは自民党政治そのものの行き詰まりです。新しい政治へ「夜明け前」の大激動を闘いぬきます。